



熱帯雨林保全プロジェクト

Papua New Guinea

Solomon Islands

熱帯雨林の保全を目的に、
定地での循環型有機農業の普及を支援しています。



左上) 陸稲の苗を植える様子
左下左) 全体ミーティングを行う研修生
左下右) 有機農業の技術指導を受ける研修生
右上) 脱穀するスタッフ
右下) 焼畑農業の跡地

豊かな自然環境が残り、多種多様な動植物が生息する熱帯雨林で、定地型の循環型農業の普及促進をしています。熱帯雨林は二酸化炭素の吸収源としても貴重な資源ですが、近年の人口増加や商業伐採に伴う過度な焼畑農業により、自然の再生スピードを越える熱帯雨林の破壊がすすんでいます。これまで、プロジェクトパートナー(*1)の方々とともに、精米機設置(*2)や有機農業研修の機会提供などを続けてきました。

*1 バパアニューギニア:財団法人オイスカ、ソロモン諸島:NPO法人APSD

*2 バパアニューギニアの精米機設置サイト:クランブ、ウボル、CIS、バルマルマル(以上東ニューブリテン州)、アミオ(西ニューブリテン州)

➔ 「循環型の有機農業普及」4つのステップ

- 第1ステップ 知識や技術の習得(実地研修など)
- 第2ステップ 有機農業普及の基礎的な設備導入(精米機設置など)
- 第3ステップ 循環型有機農業のインフラ整備(有機肥料小屋や養豚場など)
- 第4ステップ 持続的な有機農業普及(地域における自立的運営など)

パプアニューギニア

➔ 2005年度の活動

自立運営に向けた取組みを始めました。

研修所の卒業生が中心となり、プロジェクトサイトやその他の村々(計12ヶ所)で有機農業普及に向けた研修会を開催しました。研修会に参加したたくさんの受講生が、熱帯雨林保全の大切さを学び、定地型有機農業の技術を習得しました。そのほか、ボカシ(有機肥料)小屋建設や、ノニジュース加工技術習得、農業マネジメント研修などを行いました。



プロジェクトサイト(CIS)に設置された精米機

➔ 今後の活動

有機農業の普及を目指し、有機農業研修(技術習得など)の開催、バイオトイレ(有機肥料づくり)や給水施設(養豚・養鶏場への給水)の設置、ココボ自然環境公園(地域への有機農業普及啓発)の建設などを行います。

ソロモン諸島

➔ 2005年度の活動

モデル研修農場で初めて6ヶ月間の研修機会を50名の研修生に提供しました。

モデル研修農場である「パーマカルチャーセンター」で、今まで学校運営や講師の経験がなかったスタッフが、パプアニューギニアで研修し、それぞれの村で経験を積み、初めて研修生を受入れました。12月にはほぼ全員が卒業を迎えることができました。そのほか、研修生への有機農業サポートや、灌漑工事の実施、養蜂技術の習得などを行いました。



授業を熱心に受ける研修生

➔ 今後の活動

モデル研修農場が開校し、有機農業の基盤が整いつつあります。これからは、施設の充実に加え、視覚や味覚で地域の人たちが有機農業を体感できる「デモンストレーションセンター」をマライタ州の州都アウキに設置し、「有機農業普及」に向けた活動を行います。